

秋大豆生育初期におけるクキモグリバエの防除について

宇都敏夫*・馬場口勝男*

UTO, T. & BABAUCHI, K. On the Control of Soybean Stem Miner (*Melanagromyza sp.*) in the Early Growing Period of Summer Sown Soybean

昭和29年、茎潜蠅秋大豆初期の被害の防止について試験を行つて効果を確認したので、その概要を報告し御参考に供したい。

1. 播種期を異にした場合の回避的効果試験

区別	霜被			黄色秋大豆		
	総稈長	被害長	率%	総稈長	被害長	率%
	cm	cm		cm	cm	
7月1日	42.49	18.47	43.85	60.39	27.21	45.06
// 10日	37.29	20.43	54.79	53.87	21.59	40.08
// 20日	29.57	19.02	64.32	38.87	23.65	60.84
// 30日	21.89	12.31	56.24	35.67	19.22	53.88
8月10日	9.30	7.26	78.06	12.90	11.62	90.44

稈長及び被害長共播種期による差が明らかで、早播程発育がよくまた被害も少い。

2. 各種薬剤の防除効果比較試験

薬剤の種類及び濃度によつて稈長並に被害長に顕著な差異が認められた。即ちエンドリン乳剤が単用、混用共最も効果があり、ホリドール乳剤、リンデン水和剤、DDT乳剤等がこれに次ぐ。効果の差は処理1ヶ月後においても明らかで、特にエンドリン乳剤区においては顕著で、残効性が大きく影響しているように推察される。

3. 薬剤撒布時期試験

区別	ホリドール乳剤 2000倍			エンドリン乳剤 500倍		
	総稈長	被害長	率%	総稈長	被害長	率%
	cm	cm		cm	cm	
1回撒布	36.67	22.38	61.03	50.62	9.02	17.86
2回撒布	44.90	19.16	42.67	51.05	12.92	25.31
3回撒布	40.13	17.49	43.58	55.79	7.19	12.89
4回撒布	43.41	14.05	32.37	55.38	1.61	2.91

備考 品種：霜被、撒布時期：初葉出現期より1週毎撒布。

両薬剤とも撒布回数が多くなるに従つて稈長が優れ、被害長率が低い。特にエンドリン乳剤において顕著である。また両薬剤を比較するとエンドリン乳剤は1回撒布でホリドール乳剤の4回撒布より被害が少い。

むすび 秋大豆の生育初期の茎潜蠅の被害は萎凋枯死を惹起し、芯止り現象を起して草丈(稈長)が短くなる。斯る初期の被害の薬剤による防除法としてはエンドリン乳剤、ホリドール乳剤等がよく、なかでもエンドリン乳剤は残効性が大きく、人畜にも安全で最も有望な薬剤と思われる。撒布時期は初葉が出始め※

区別	事項	8月16日			9月11日		
		総稈長	被害長	率%	総稈長	被害長	率%
		cm	cm	%	cm	cm	%
ホリドール乳剤	2000倍	21.19	3.15	14.86	51.16	17.68	34.56
//	3000倍	21.67	1.38	6.37	51.31	19.55	38.10
//	4000倍	19.75	2.14	10.84	49.09	17.44	35.53
ホリドール粉剤	1.5%	19.85	9.07	45.69	49.45	18.69	37.80
エンドリン乳剤	500倍	22.56	0	0	50.50	5.22	10.34
リンデン水和剤	0.05%	21.60	4.45	20.60	50.75	15.19	29.93
DDT乳剤	0.05%	20.11	8.61	42.82	48.14	20.71	43.02
BHC粉剤	1.0%	16.88	9.54	56.51	47.55	17.56	36.92
ホリドール粉剤	1.5% >混合	16.85	10.80	64.09	41.43	21.23	51.24
DDT粉剤	10.0% >混合	21.93	0	0	50.58	2.37	4.69
ホリドール乳剤	2000倍 >混合	21.93	0	0	50.58	2.37	4.69
標準(無処理)		15.83	11.73	75.93	36.04	16.31	45.26

備考 供試品種：霜被、撒布期：初葉出現期から1週間毎3回撒布。

※た時期より始め、エンドリン乳剤は1週間おき1〜2回、ホリドール乳剤は3〜4回の撒布が必要と思われる。

*鹿児島県農業試験場鹿屋分場